

輸出事業計画

※申請者名：株式会社坂田水産、品目：養殖真鯛

1. 輸出における現状と課題

【現状】

- 配合飼料へのこだわりと低い放養密度、および徹底したトレーサビリティにより、自社ブランド「みやび鯛」を確立。戦略的ブランディングが功を奏して、アメリカにおける日本産真鯛の約70%のシェアを確保。
- 今後も輸出増が見込まれたところに、新型コロナウイルス感染拡大に見舞われ、一時アメリカ向け輸出が大きく落ち込んだ。

【課題】

- 離島地域に所在しているため、他社と比べて輸送コストが高く、また地元労働力の確保も困難。
- 徐々に回復しつつあるが、コロナ禍で航空費・海上輸送費の高騰等が生じている。

2. 輸出事業計画の取組内容

【各国共通】

- 離島地域に所在しており、地元雇用の確保は困難。外国人技能実習生等の外部人材受入れ等を検討する。
- 原料となる魚粉価格の上昇や円安等により配合飼料価格が高騰し、大きな増産リスクとなっている。多様な販路を確保しつつ、生産量については当面維持する方向で対応する。

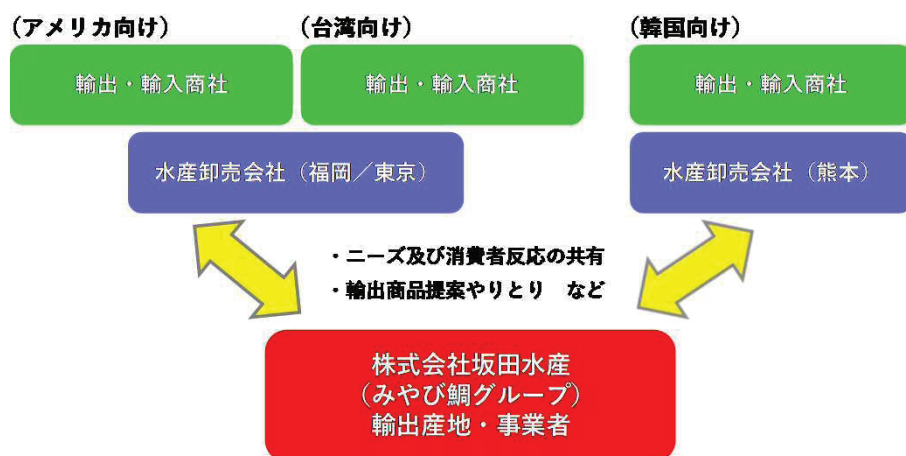
【アメリカ向け】

- 水産HACCP認証の取得・更新、米国食品安全強化法に基づく食品安全計画への対応、米国FDAへの施設登録（ファシリティナンバーの取得）など、必要な手続き・投資を行う。

【韓国向け】

- 令和4年7月からエトキシキン残留基準が施行されることから、エトキシキンフリー飼料を導入する。

3. 輸出事業計画の実証と見直しを行うためのPDCA実施体制



4. 輸出目標額

		現状（令和3年度）	目標年（令和7年度）
天草地区	輸出額（円）	4億	7.5億
	輸出先国	アメリカ、韓国、台湾等	アメリカ、韓国、台湾等